

2016 年度 センター試験 世界史 B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：36 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ● やや難化	○ 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評</p> <p>例年通り、テーマ史的なリード文を用いながら広い範囲の小問を集めた形式となっており、大問 4 題・総解答数 36 問という分量も昨年と同じである。また、戦後現代史を含む問題は、昨年度と変わらず 5 問であった。</p> <p>難易度については、語句の暗記では対応しきれない正誤判定問題や、文化史の事項の年代整序問題が出題されており、昨年と比較するとやや難化した印象である。</p> <p>出題形式では、語句問題が昨年と変わらず 4 問であった。また、昨年は 1 問のみ復活した指定年代の正誤を問う問題が姿を消した。一方で、世界史 B(本試験)では 2003 年度以来となるグラフを題材とする問題が、1 問ながら出題された。その他は、年表形式の問題・地図問題とも、昨年と変わらず 2 問ずつである。</p> <p>なお新課程で強調されている、日本史を強く意識した問題は、今年度は特に見られなかった。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	世界史上の宮廷や宮廷文化	25 点	従来の傾向通り、地図問題・文化史も含めた総合的な学力が求められる内容である。なお文化史については、作品と著者のような 1対1対応の形ではなく、事項を年代順に並べ替える問題が出された。
第 2 問	世界各地の世界遺産	25 点	イギリス・フランス・オランダの船舶数のグラフを用いる問題を 1問、年表形式の問題を 2 問含む大問。グラフについては、一般的な事項やポイントを連想させるのではなく、グラフの数値自体を読み取らせる問題であり、従来にはない傾向である。なお、他の大問も同様であるが、掲載された写真については、設問を解く上で直接の関係はない。
第 3 問	世界史上の戦争とその影響	25 点	古代から戦後現代史まで、幅広い範囲と地域を扱った大問。地図問題も文化史も含んでおり、センターでは苦手分野を作らないことが重要だということがよくわかる。
第 4 問	世界史上の宗教と政治の関係	25 点	イスラーム教・仏教・キリスト教に関して、古代から戦後現代史まで幅広く扱った大問。従来通り、扱われる地域も古代オリエント・ローマから東南アジアやラテンアメリカまで、非常に幅広い。